

# 大人が絵本を 第25回 絵本は



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子\*

小児歯科医師 濱野 良彦\*\*

\* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)  
\*\* 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

## 絵本と向き合う大人になる

2014年11月に本誌に参加させていただき、3度目の11月がやってまいりました。お付き合いいただいている皆様、ありがとうございます。3年目の節目に、「大人が絵本を手にする」ということを今一度、振り返ってみましょう。大人が絵本を手にするとき、それは「子どもに読んであげるとき」という単純な構図ではないことは、ご理解いただけたことと思います。子どもにとって遊びのひとつである絵本の楽しみを、大人が場と時間と気持ちを共有するために、大人自身がしっかりと絵本と向き合うことが肝心なのです。そうです、「絵本は子どもに読ませる本ではなく、大人が子どもに読んでやる本」<sup>1)</sup>(連載第14回)で、「大人が自分のために読む作品としての絵本という意識が大事」<sup>2)</sup>(第1回)なのです。

しかしながら社会全体に目をやると、映像メディアの世界が幼児から幅広い年齢の視聴者層を掴んでいる現状と比べたとき、専門家たちの積極的で興味深い取り組みと多くの普及活動がありながらも、絵本が「子ども向きの本」という概念を完全に打ち破れていないことは否めない実態です。私たち絵本を取り扱う司書の努力不足が浮き彫りにされ、普及活動の裾野を広げていかなければならないと痛感します。

子どもの成長・発達を考えると、テレビやDVD、スマホに幼いうちから触れさせることは、リスクでしかないけれど、絵本で思う存分に遊んだ子どもたちは、脳と心の発達に良い影響を与えることがさまざまな科学的研究で立証されています(第7回)。心地よい言葉を受けて、赤ちゃんはニコニコ顔になり、そんな子どもの笑顔を見た親に喜びの笑顔が生

まれ、大好きな大人の笑顔が嬉しくて赤ちゃんがキャッキョと笑う…。この笑顔の連鎖反応で、子どもの心も豊かになるのです(第9、10回)。また、同じ絵本を繰り返し楽しむことで、モノの名前を覚えたり、語彙数が増えたりして子ども自身の絵本の楽しみが広がるとともに、親子のコミュニケーションもどんどん拡大していきます(第17、20回)。さらに、物語を通して勇気や正義、思いやりの心、喜怒哀楽を身につけ、ますます成長していくのです。

## 大人のための絵本とは

絵本から勇気や正義、喜怒哀楽を学ぶのは、何も子どもに限ったことではなく、大人自身も同じです。「大人が自分のために読む作品としての絵本」について話を進めていきましょう。「心が砂漠のように乾ききった昨今の日本の大人たちに向かって、『大人こそ絵本を』と訴えている柳田邦男氏は、「バーチャル情報優位の環境の中で、子どもにとっても大人にとっても、感性豊かな子どもの人間形成と潤いのある大人の心の回復のために、絵本はいよいよ重要なメディアになってきている」と指摘しています<sup>3)</sup>。絵本には、「生きることといのち」、「愛」、そして「癒しのエッセンス」など、生きていくうえで大切なこと、すなわち「生きる力」が凝縮されて詰

『おおきな木』  
シェル・シルヴァスタイン 作・絵  
ほんだ きんいちろう 訳  
(篠崎書林)



# 手にするときは！

## 大人のために

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

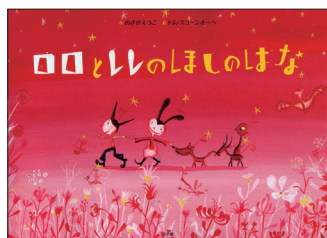
まっています。

その代表的な絵本に、誰もが知っている定番の『おおきな木』(シェル・シルヴァスタイン 作)があげられます。少年を愛し与え続ける木と、それを当たり前のように受けて育つ少年の交流が描かれていますが、大人が読んだときには、子どもでは湧かない感情が生まれてくると思います。人生経験を積んだ大人だからこそ湧きあがってくる感情が生まれ、そして、自分の生命や家族、先祖の生命までをじっくり見つめようとする気持ちになれるのです。



### 絵本で支える大人、絵本に支えられる大人

連載第1回で紹介しました、「手から手へ展」から生まれた絵本『ロロとレレのほしのはな』を覚えていますか。震災と原発事故を発端に、「手から手へ、私たちのつながりが明るい未来を紡ぎ出していきましょう」<sup>4)</sup>との願いが込められ制作された、いのちの絵本です。真っ暗闇のページから始まり、次第に小さな光が射して、あちこちで咲く星の花とともに世界は明るく賑やかになっていきます。登場人物たちのかわいタッチが、小さな子どもを楽しく嬉しい気分へ導きます。



『ロロとレレのほしのはな』  
のぞか えつこ 作・  
トム・スコンオーヘ 絵  
(小学館)

当館では、大切な記念日に「絵本の贈り物」を推奨していますので、子どもだけでなく、大人から大人への贈り物絵本の相談もあります。「お義母さんを

亡くして塞ぎこんでいるママ友へ、絵本でメッセージを贈りたい」との相談を受けたとき、迷わずこの『ロロとレレのほしのはな』をおすすめしました。対象のお母様はご自身の両親を早くに亡くされていて、お義母様とは本当の母娘のような関係でいたので、とても落ち込み外出もされていないことにママ友さんたちも気にやんで、「絵本で支えてあげられたら」という思いで相談に来られたのです。さりげない支えに、私も心を打たれ、『木のあかちゃんズ』(いせひでこ 作)や『ひかりの世界』(葉祥明 作)など大人の心に響くおすすめ絵本と共に提示しました。

その時のお母様たちは、紹介したいくつかの絵本を共に読みあってから、「ロロとレレ」を贈ることにしたのです。それから数か月も後になって、贈られた側のお母様からお礼の言葉をいただきました。「表現するのは難しいけれど、穏やかな気持ちになった」ことを吐露されました。悲しみのどん底にいた心に、絵本が光を射したのではないのでしょうか。当然ながら、ご家族やママ友さんなど、人と人のつながりも大事な要素です。

熊本県出身の葉祥明氏も、いのちの絵本を届けてくれる絵本作家です。葉氏の『海からの風』に心の交流を交わし、友情を深め合った大人がいます。3歳



『海からの風』  
葉 祥明 著  
(晶文社)



の女の子をもつお母様は、故郷で暮らす親友が40歳を目前に失恋し、仕事をする気力すらなくしている心を支えたいと、絵本に気持ちをのせることにしました。この時、紹介したのは先ほどの『ロロとレレのほしのはな』と、葉氏の『ヒーリング・キャット』『海からの風』です。一冊一冊をゆっくり読み、若い頃から現在までの親友を振り返り、そしてまた絵本と対話して『海からの風』を選書されました。この行程だけで、贈るお母様とご友人の関係や、お友達に対する想いが強く伝わってきて、素敵なお母様であり、大人だなあと感じました。きっと、ご友人は絵本によるメッセージだけではなく、友の大きく温かいメッセージを受け取られたことだと思います。このような一方向しか見えない相談もありますが、人々の熱い思いや、温かい思いやり、人間のつながりも見え隠れするドラマに感動させてもらっています。

## 大人を演じている子ども

大人におすすめしたい絵本は、子ども向けと同様に多種多様なジャンルと、そして多くの絵本作家のものまでさまざまあるのですが、今回は敢えてシェル・シルヴァスタインの作品をもう一冊ご紹介します。「自分探し」をテーマにした『ほくを探しに』は、円形の一部が欠けた「ほく」が欠けたかけらを探しに旅するお話です。新装版初版の帯裏表紙面は、「こ



『ほくを探しに』『ビッグ・オーとの出会い』  
シェル・シルヴァスタイン 作・絵 倉橋由美子 訳  
(講談社)

ども 少女 青年 おとな…すべての童心の四季に』<sup>5)</sup>というキャッチコピーに飾られています。このコピーどおり、丸っぽいもののコロコロ旅が単純で子どもが読むと、とても楽しい物語です。山を越えたり海を渡ったり、見つけたものを欠けた部分に当てがったりする冒険にワクワクするでしょう。

そして、添えられた文章に心踊らされること間違いありません。

「ランランラン ロンロンロン ほくのかげらをさがしてる」  
「足りないかけらをさがしてる ラッタッタ さあ行くぞ」<sup>5)</sup>

子どもには楽しいこの言葉ですが、上記引用文を大人の皆さんが読んだとき、どのように受け止めるでしょうか。日本語版訳者の倉橋由美子氏は、『続ぼくを探しに：ビック・オーとの出会い』のあとがきで印象的な解説をしています。

考えてみると大人の大部分はうまく大人のふりをしていけるようになった子どもか、それがうまくできないでいる子どもか、そのいずれか。

シルヴァスタインの童話がアメリカで人気が高いのは、大人を演じるのに成功しているにしろ失敗しているにしろ、アメリカ人が自分の「子ども性」を鋭く意識している人間であることを示すのかもしれない。

これに対して日本人の場合は、子どもがそのまま大人として認められるように世の中ができていて、自分の中の子どもを余り意識しないで済むし、またそのことで悩んだりすることも少ない<sup>6)</sup>。

少し長い引用になりましたが、訳者が言う「子ども性」を日本ではいつまでもたっても認められる環境にあると思います。しかし、それは幼稚だとか、成長できていないこととは別次元の大事なことで、大切にすべき日本の心なのではないでしょうか。さて、大人の皆さまは「大人のふりをしていけるよう

になった子ども」でしょうか、「ふりがうまくできな  
いでいる子ども」でしょうか。

絵本による自分探しは、時に自分も気付かなか  
った自分と出会え、驚くことがあります。この『ほく  
を探しに』に限らず、さまざまな絵本を通して、一  
度、客観的に自らを俯瞰してみませんか。



### 柳田邦男氏に学ぶ

シルヴァスタインの世界を見ていると、大人に  
とって絵本は、学びの要素でもあることがよく分か  
ります。生涯学習社会の現代において、人生や生活  
の中で起こるさまざまな課題を達成するために、大  
人も学び続けることが求められています。「学ぶ」と  
いうことに喜びを見出し、社会的、精神的に成長す  
ることは大人の発達課題とも言えるでしょう。それ  
は何もセミナーに参加したり、教養書を読んだりす  
ることだけではありません。それらは絵本の中にも  
ぎっしりと詰まっているのです。絵本を読むことで  
視野が広がり、自分を見つめ直し、人生を考え、大  
人自身の脳と心が豊かになるのです。

「大人こそ絵本を」の提唱者である柳田邦男氏は、  
「絵本は人生で三度読むべきもの」として、その三度  
を「自分が子どもの時」「自分が子どもを育てる時」  
「人生の後半に入った時」と言い、特に三度目は「老  
いを意識したり、病気をしたり、あるいは人生の起  
伏を振り返ったりするようになると、絵本から思い  
がけず新しい発見というべき深い意味を読み取る」  
と述べています。また、「生きていくうえで一番大事  
なものは何かといったことが、絵本の中にはすでに  
書かれている」とも言っています<sup>2)</sup>。

大人の心をしなやかに、伸びやかに解し、人生の  
指針をも示してくれる絵本ですが、読む対象が変わ  
れば楽しくて、おもしろくて興奮を与えてくれる遊  
び道具に変身するのです。絵本の大きくて深いフシ  
ギな力に、ますます魅了されてしまいます。これだ  
から絵本司書は楽しくて仕方ありません。

「歯科医療文化の中で活かす絵本」のもっと根底  
にあること、つまり、医療者であり、大人である皆  
様方ご自身への絵本のススメをお話しさせていただ  
きました。医療という、大切ないのちのお仕事をさ  
れている皆様方だからこそ、一度立ち止まって、絵  
本に触れてみてください。

「大人こそ絵本」  
です。



### 文献

- 1) 松居 直：絵本のよろこび，日本放送出版協会，東京，2003，p.18-21.
- 2) 柳田邦男：大人こそ絵本を（In河合隼雄，松居直，柳田邦男：絵本の力），岩波書店，東京，2001，p.85-87.
- 3) 柳田邦男：大人こそ絵本を，平凡社，東京，2016，p.27-38.
- 4) のぞかえつこ 作，トム・スコーンオーへ 絵：ロロとレレのほしのはな，小学館，東京，2013，あとがき.
- 5) シェル・シルヴァスタイン 作，倉橋由美子 訳：ほくを探しに，講談社，東京，1977.
- 6) シェル・シルヴァスタイン 作，倉橋由美子 訳：続ほくを探しに ビッグ・オーとの出会い，講談社，東京，1982，あとがき.

### 絵本

- 1) シェル・シルヴァスタイン 作，本田錦一郎 訳：大きな木，篠崎書林，東京，1976.  
※本田錦一郎訳書は、現在絶版。2010年に村上春樹訳版があすなろ書房より出版
- 2) いせひでこ：木のあかちゃんズ，小学館，東京，2013.
- 3) 葉 祥明：ひかりの世界，佼成出版社，東京，1997.
- 4) 葉 祥明：海からの風，晶文社，東京，2011.
- 5) 葉 祥明：ヒーリング・キャット，晶文社，東京，2004.